

## 南仏治安情報 (2012年7月)

### ■プロヴァンス地方

#### 1. 観光シーズンに伴いひったくり事件が頻発

マルセイユ市で観光客や老人を狙ったひったくり事件が増加傾向にあるのを受け、ブーシュ・デュ・ローヌ県警は街頭での取締りを強化しており、5月からの3ヶ月間で232人を検挙、内47人を収監しました。全体の約50%(103人)は未成年によるもので、犯行の若年化が目立っています。

#### 2. 革命記念日に放火等の罪で11人を逮捕

7月14日(革命記念日)の夜、記念日に伴う行き過ぎた行為を取り締まるため、マルセイユ市ではVieux-Port地区を中心に550人の警察官が配置されました。結果は中心街から離れた地域で放火事件が多く発生し、St-Marcel(11区)では爆竹により火災が発生し民家近くの土地5ヘクタールを燃やし、St-Louis(15区)ではゴミ箱の消火活動を行っていた消防士めがけてロケット花火が打ち込まれる等、報告されただけでも同地域で放火事件が9件起発生しました。また23時頃St-Antoine(15区)の路上で男が22口径ライフル銃所持で逮捕される等、一晩で11人が逮捕されました。

#### 3. バカンスシーズンにおける警察による空き巣対策の実施

フランス南部では今夏も警察によるL'opération tranquillitéにより、バカンスで留守になった住宅に対する巡回を強化しています。昨年と同シーズン中、ブーシュ・デュ・ローヌ県では届け出のあった1170件の家屋の内、空き巣被害に遭った家屋は5件に抑えられています。同様の巡回活動は各都市で実施されています。

#### 4. 大気汚染がピークに達する夏場の午後に注意

マルセイユ市では今年に入ってから大気中の高濃度汚染が30日程観測されており、フランス公衆衛生委員会(CSHPF)は、長時間オゾンにさらされる事による肺機能の低下を懸念しています。特に影響を受けやすい児童については、オゾン濃度がピークに達する夏の午後の早い時間帯は、屋外でのスポーツを控えるよう注意すると共に、咳、呼吸障害、目やのどに異常を感じた場合は医師に相談する様呼びかけています。

## ■コートダジュール地方・コルシカ島

### 1. 2012年上半期ニース市街頭安全対策の統計

ニース市警察による治安対策についての今年度初頭から5月迄の統計によると、全検挙数は988件(前年同時期比 +3%)、防犯カメラの映像による検挙数は177件(+18%)、防犯カメラの映像が判決に影響した件数190件(+35%)、住宅地での騒音・騒ぎに対する検挙数81件、公共の場での夜間の飲酒に対する検挙数57件等となっています。更なる街頭安全強化のため、市内では今後新たに10箇所目の警察署が設置され、また防犯カメラも年末迄に774台まで増設される予定です。

### 2. ニース市における防犯パトロールの強化

今夏ニース市では警察犬を使用した6-8人組による警察官のグループによる繁華街の集中パトロールが実施されており、特にパリ祭の夜Prom' Partyのあった地区で午前0時から3時間の間に指名手配中の2人を含む12人を暴行、窃盗、無許可販売等の罪で検挙しました。警察による巡回はVieux-Niceを中心に今後も定期的に行われる予定です。

### 3. クラゲ被害の予防策

近年地中海ではクラゲが大量発生しており、多くの被害が報告されています。万が一刺された場合患部を擦らずに海水で洗い医師による診察を受ける事が勧められています。カンヌではGazagnaire, Macé, Roubineの3海岸の一部で8月終わりまでクラゲ避けネットが設置され、またVillefranche-sur-Merの海洋研究所では生態・移動の研究によりManton - St-Ropez間でクラゲ接近予報のシステムを開発しました。jellywatch.frのウェブサイト上で閲覧可能です。

### 4. コルシカ島南部で別荘爆破事件が発生

コルシカ島南端ポニファシオ近くで7月2日、パリ在住の銀行家所有の別荘が爆破され甚大な被害が発生しました。武装グループは滞在者をあらかじめ外に出した上で別荘内部に爆発物を仕掛けており、けが人はありませんでした。

## ■ミディ・ピレネー地方

### 1. トゥールーズ市外環道での投石事件の多発

7月に入りトゥールーズ市では外環道を走行する車両をめがけた投石事件が相次いで発生しています。7月中旬にRoseraieで投石を受けた男性は、運転していた車両のボンネットに当たった石が跳ねフロントガラスが破損する被害を受けました。また別の男性は腕に軽い怪我を負うなど大事には至っていませんが、一歩間違えば命に関わる大事故にもつながりかねない危険な状況です。複数名が告訴していますが、いずれも証拠不十分で犯人を特定できていない状況です。

### 2. 頻発する金属盗の被害

ここ数年の金属の価格高騰によりフランス南部各地で金属盗が多発しています。特に交通機関や工事現場で使用されているケーブル内の銅線が窃盗犯の標的になっています。7月中旬トゥールーズ市ではトラムウェイの工事現場から銅線30kgを持ち出そうとした男が逮捕され、また公園で使用されているケーブルから銅線を取り出そうとプラスチック部分を燃やしていた男が逮捕された他、Guilhemery地区の工事現場からは計7,000ユーロ相当にもなる銅線が盗まれました。

### 3. スペイン国境付近での森林火災の発生

Le PerthusとスペインJunqueraの間、スペイン国境より500mの地点で7月22日煙草の不始末が原因で火災が発生し、森林13,850ヘクタールを焼失し、約100件の民家を含む建物が被害に遭い、フランス人3人を含む4人が死亡しました。南フランスでは気温の上昇と空気の乾燥した状況が大火災を招くおそれが懸念されており、乾期の庭でのバーベキューの使用には自粛が呼びかけられています。また森林から200m以内で火を使う事は煙草を含め禁止とされており、車道への煙草の投げ捨ては135ユーロの罰金の対象になります。

### 4. 麻疹の感染が増加

ミディ・ピレネー地方では今年に入ってRougeole(麻疹)の感染が175件報告され、その内50%近くが人口の密集しているトゥールーズ市を中心に発症しています。幼児のかかる病気として認識されていますが、感染者の3人に1人は20歳以上の大人となっており、特に妊娠中の女性が感染すると流産につながる危険性もあります。改めて予防接種を受ける様呼びかけられています。